



特別記事

InterBEE 2018 開催速報

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：会長 柵山正樹／三菱電機株式会社 取締役会長）は、11月14日（水）から16日（金）までの3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）にて開催した、最新の映像・放送・通信・音響・照明・メディアビジネスのイノベーションが一堂に会する「Inter BEE 2018」が、過去最多となる出展者数1,152社・団体（うち海外34カ国・地域から646社／団体）、出展小間数2,054小間、登録来場者数も過去最多となる40,839名を以て11月16日に閉幕したと発表した。

Inter BEE は、2019年までの3ヶ年で、コンテンツを中核とした「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うつくる（体験）」の領域を網羅する、近未来のメディアコミュニケーションとエンターテインメントの総合イベントへの発展を目指しており、最終年に向けて弾みをつける結果となった。

今開催では、展示ホールを前回より拡張し、はじめて幕張メッセ国際展示場1ホールから8ホールまでの全館54,000㎡を使用し、「プロオーディオ部門」、「映像表現／プロライティング部門」、「映像制作／放送関連機材部門」、「ICT／クロスメディア部門」4部門にて、イベントホールと国際会議場をあわせて過去最大規模での開催となった。

■4K・8K 超高精細映像の最新技術が集結

2018年12月からの4K・8K 実用放送開始に向け、放送事業者がそれぞれの準備状況などを報告したほか、4K・8K 撮影・編集技術をはじめとして、HDR（ハイダイナミックレンジ）やHFR（ハイフレームレート）など、最先端の映像・音響制作、圧縮・伝送、表示技術が一堂に会した。

特に今回は、8K 技術を提案する出展企業の顔ぶれが増えたことにより、海外の映像系展示会でも類を見ない多くの8K 技術がInterBEE に集まり、披露された。

■IP 伝送、クラウド、ネット配信、5G の動向にも注目

放送の業務効率化やネット配信などにに向けたクラウド活用やIP（インターネットプロトコル）化の市場獲得を目指し、InterBEE にはIT系企業の出展が増加しており、今回はコンテンツ配信網CDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）を提案する企業が初出展。

また、IP ライブ伝送のテーマを集約したIP Showcase を実施するほか、基調講演では5G（第5世代移動通信システム）セッションを開催するなど、従来までのInterBEE では見られなかった新たな動きが展開された。

■AI 活用、VR・AR、新しいコンテンツ体験

今回のコンファレンスプログラムの中で新たなキーワードとして注目されたのがAI（人工知能）であるが、番組制作の効率化や新たなサービス化、災害報道での活用やクリエイティブとの融合など、様々な視点からAIの活用や連携を探るセッションが並ぶ。

また、昨年からひきつづき、360度映像、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）による新たなコンテンツ体験の提案がさらに進展し、スポーツ中継や音楽ライブとの連携、エンターテインメント分野での活用提案が多数揃った。

■InterBEE ならではの高品質な音響体験

「INTER BEE EXPERIENCE」

InterBEE の恒例企画となった、ライブイベントなどで使用するスピーカーの体験デモを本年も実施。幕張メッセイベントホールの大型アリーナに、過去最大の15製品が一堂に会し、大音響のクオリティを再現した。

また、昨年好評だったプロユースのマイクロフォンとヘッドフォンの体験コーナーも実施。聞き比べる機会が少ない高品質製品が並び貴重な機会となった。

「SR スピーカー体験デモ会場」では国内最大級の規模にて音響各社の参加によるSR スピーカーの体験デモンストレーションを実施。数多くのプロフェッショナルユーザーが来場する本展ならではの視聴体験デモは、毎年多くのユーザーや業界関係者の関心を呼んでいる。

一方ホール2では「ヘッドフォン／マイクロフォン試聴体験展示」を行い、各社ブースでは高品質の音創りと音響体験に欠かせないヘッドフォン／マイクロフォンが試聴可能な状態にて紹介された。スタジオやライブの音響関係者や映像制作関係者をはじめ、多様なInterBEE 来場者から要望の多かったヘッドフォンとマイクロフォンの視聴体験。今年も定番製品からハイエンド製品まで、各社のヘッドフォン／マイクロフォン製品を一堂に集めた視聴体験展示の場を展開。それぞれの技術や個性が主張でき、音づくりと音響体験の可能性を提案する場をプロユースに提供した。

■InterBEE IGNITION での講演

「最新映像技術が集結、新たなメディアの可能性を探る」をテーマに、仮想現実／バーチャルリアリティ（VR）、拡張現実（AR）、インタラクティブシステム、360度映像、3D映像、ホログラム映像、パノラマ映像、没入型映像、超臨場感映像、プロジェクションマッピング、ドローン、インターネットオブシングス（IoT）、ロボティクス、人工知能（AI）、モーションセンサシステム、メディアアート、その他映像表現技術を紹介。またハードウェア面においては、大型LEDディスプレイ、屋外ディスプレイ、4K/8K プロジェクタ、パブリックビューイング、デジタルサインエージディスプレイ、ライブビューイングシステム、ライブ中継シス



基調講演などが随時催された「InterBEE CONNECTED」会場の様子

テム、リアルタイムライブ演出、ライブ演出映像システム、ライブ演出照明システム、ライブ演出用特機、空間演出、その他ライブエンターテインメントなどの紹介を行った。

急速に進化し変化する、メディアとエンターテインメントの表現世界。今年は「Show Biz」「Music」「Sports」にフォーカスを当て、クリエイターとコンテンツ、テクノロジーがコラボレーションして生み出す新たな映像表現の様々な挑戦を展開。多様なコンテンツが投入され始めたVR（仮想現実）や360° 映像をはじめ、AR（拡張現実）、ホログラム映像、ライブビューイング、ロボティクス、映像表現技術へのAIの導入など、最新の情報と日々進展する市場動向をアップデートに捉え、その可能性と未来を発信した。

■InterBEE CONNECTED

放送と通信の融合を展示とプレゼンテーションで提案。ICTとメディア環境が日々広がり変化するなかで、テレビ放送をはじめとしたメディアコミュニケーションは、これまでにない変革のときを迎えている。放送はどう変わり、ICTはメディアコミュニケーションにどんな可能性を広げるのか。放送とコミュニケーションの最前線から、新しいビジネスモデルを探り発信した。

そのほか、最先端の制作ツールや第一線で活躍するクリエイターが集結した「INTER BEE CREATIVE」や、コンファレンス、スポンサーセッション、IP SHOW CASE、第54 回 民放技術報告会、出展者イベント、グルメスポットなど、多岐に亘る催しを開催3 日間に凝縮して行った。

InterBEE では、国内外の出展企業の最新製品の展示・プレゼンテー

ションと、様々なテーマのコンファレンスセッションや体験イベントを通じ、近未来のメディアコミュニケーションとエンターテインメントの世界を体感。放送・通信事業者、映像・音響制作関係者はもとより、広く一般企業や地方自治体の広告・マーケティング担当者や、デザイン・Web制作会社、施設・イベント関連事業者など、多岐にわたる来場者が訪れた。

(主催者発表プレスリリースより抜粋)

■ INTER BEE FORUM

◇基調講演 4K・8K 実用放送に向けて◇

- 放送政策の最新動向
- ようこそ スーパーハイビジョンの世界へ
- キー局系BS5 社の取り組み
- 新たな4K8K 放送の展望

～A-PAB が周知広報計画を語る～

■INTER BEE CONNECTED 基調講演

- ## ○配信新時代 ～キー局とプラットフォーム～
- 今年 5 月、TBS、テレビ東京、WOWOW などメディア6 社が共同で定額動画配信 (SVOD) のサービスプラットフォーム「プレミアム・プラットフォーム・ジャパン」を立ち上げると発表。日本テレビは子会社化したHulu を完全にリニューアル。テレビ朝日は急成長するAbemaTV の一翼を担う。またフジテレビはFOD (フジテレビオンデマンド) の多角化で独自路線を進む。キー局の配信プラットフォーム戦略について、その戦略と展望の講演内容。

○本格化する“スクリーン選択”の時代の見取り図を描く～電通・ビデ



国際会議場にて連日開催された多数の講演（会場入口に設置された案内看板にて）